

# 安全データシート

整理番号【781-5】

制定日 2020/03/06

改訂日 2025/05/30

## 1. 化学品及び会社情報

### 化学品

化学品の名称 サラティブPA

### 供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

### 推奨用途及び使用上の制限:

推奨用途: 透析装置や配管の洗浄・除菌、炭酸カルシウムスケールの除去。

業務用透析装置専用過酢酸系洗浄除菌剤。

使用上の制限: 推奨用途以外の用途に使用しない。

## 2. 危険有害性の要約

### 化学品のGHS分類:

#### 健康有害性:

急性毒性(経口): 区分4

急性毒性(経皮): 区分3

急性毒性(吸入: 蒸気): 区分4

急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト): 区分4

皮膚腐食性/刺激性: 区分1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1

発がん性: 区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分1(呼吸器系)

区分1(血液)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分2(呼吸器)

#### 環境有害性:

水生環境有害性 短期(急性): 区分2

水生環境有害性 長期(慢性): 区分3

### GHSのラベル要素

#### 絵表示又はシンボル:



**注意喚起語:**危険

**危険有害性情報:**

飲み込んだ場合や吸入した場合は有害／皮ふに接触すると有毒／  
重篤な皮ふの薬傷および眼の損傷／発がんのおそれの疑い／  
呼吸器系、血液の障害／  
長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ／  
水生生物に毒性／長期継続的影響によって水生生物に有害

**注意書き:**

**【安全対策】**

使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後は眼、皮ふ、喉、手をよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。  
環境への放出を避けること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

**【応急処置】**

飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮ふに付着した場合:多量の水で洗うこと。  
皮ふ(または髪)に付着した場合:  
直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
皮ふを水(またはシャワー)で洗うこと。  
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合:  
水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて  
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。  
ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診察、手当てを受けること。  
直ちに医師に連絡すること。  
気分が悪いときは医師に連絡すること。  
気分が悪いときは、医師の診察、手当てを受けること。  
特別な処置が必要である(4. 応急処置参照のこと)。  
口をすすぐこと。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

**【保管】**

施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

**GHS分類に該当しない他の危険有害性:**

酸性

塩素系の製品と一緒に使う(混ぜる)と有害な塩素ガスが発生する。

---

### 3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:混合物

**成分:**

過酢酸、過酸化水素、酢酸、無機酸

**化学名または一般名:**

過酢酸(CAS番号79-21-0) 5~6w/w%

過酸化水素(CAS番号7722-84-1) 6%未満含有

酢酸(CAS番号64-19-7) 約40w/w%含有

硫酸(CAS番号7664-93-9) 1w/w%未満含有

---

### 4.応急処置

**吸入した場合:**

速やかに新鮮な空気のある場所に移し、専門医の診断を受ける。

万一誤って塩素系製品と混合して発生した有害な塩素ガスを吸い込んだ場合には、直ちに患者を風通しの良い場所に避難させ、安静にした後に速やかに医師の診断を受ける。

手当が遅れると生命にかかわる恐れがある。

**皮膚に付着した場合:**

直ちに多量の水で十分に洗い流す。

液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。

手当が遅れると炎症を起こす恐れがある。

**眼に入った場合:**

直ちに多量の流水で15分以上洗い流す。

異常がある場合は医師の診断を受ける。

**飲み込んだ場合:**

直ちに多量の水、牛乳や生卵(アレルギーの場合はその限りではない)を飲ませる。

無理に吐かせないで速やかに医師の診断を受ける。

---

### 5.火災時の措置

適切な消火剤:

一般火災の場合は消火剤として水を用いるが、多量の有機溶剤や油類が混在する場合は、泡、粉末あるいは二酸化炭素等の消火剤を使用する。

**使ってはならない消火剤:**

情報なし

**火災時の特定の危険有害性:**

火災によって刺激性、毒性または腐食性のガスを発生するおそれがある。  
過酢酸、過酸化水素の分解により発生する酸素ガスは周囲の可燃物の燃焼を助け、火災を激しくするので注意が必要である。

**特有の消火方法:**

消火作業は風上から行い、注水に当たっては十分な距離を確保し、遮蔽物を利用する。  
また、放水銃などを利用し無人化を図る。  
火災の周辺にある容器は速やかに安全な場所に移動させる。  
移動できない場合は散水冷却する。

**消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置:**

防災耐熱性保護具、マスク等

---

## 6.漏出時の措置

**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:**

保護眼鏡、ゴム手袋等を着用し、接触および吸入を避けること。  
状況に応じロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。  
作業は風上から実施する。

**環境に対する注意事項:**

河川等への排出は避けること。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材:**

少量の場合:漏出液は多量の水で充分希釈して洗い流す。  
多量の場合:安全な場所に導き、濃厚な液が河川に流れ込まないようにしてから、自然分解させ、多量の水で充分希釈し、廃棄上の注意に従って処分する。  
漏出した液は決して元の容器に回収しない。

**二次災害の防止策:**

付近の着火源となるものは速やかに取り除く。

---

## 7.取り扱い及び保管上の注意

**取り扱い:**

**技術的対策:**

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

**安全取扱注意事項:**

- ・本品は酸性であり、次亜塩素酸塩等の塩素系製品と一緒に使う(まぜると)、有害な塩素ガスが発生するので混合しない。

- ・用途以外には使用しない。
- ・人体には使用しない。
- ・子どもの手の届かないところに保管する。
- ・作業時には換気を心がけ、必ず保護メガネ、マスク・エプロンおよびゴム手袋を着用する。
- ・希釈後は速やかに使用し、保存しない。
- ・余った原液を元の容器に戻さない。
- ・加熱くん蒸機を使う際に、フルフェイスマスクを装着する。
- ・加熱くん蒸処理後は、希釈液が残らないように加熱くん蒸機をよく洗浄する。
- ・取り扱い後は手をよくあらう。
- ・指定された以外の薬剤とは混ぜない。
- ・他の容器に移し替えて保存しない。
- ・メッキや塗装などの防錆処理がされていない鉄、銅、真ちゅう、亜鉛鋼板、炭素鋼には腐食するので使用しない。
- ・廃棄時は中和して、多量の水とともに廃棄する。

**接触回避：**

『10. 安定性及び反応性』を参照。

**保管**

**安全な保管条件：**

異物が容器に混入しないようにする。

容器には通気孔付の蓋を使用し、(タンクの場合にはベント管を設け)完全密封の状態にしないこと。

可燃性や過酸化水素の分解を促進する物質と、混合貯蔵してはならない。

保管場所には水道などを設備し、万が一の場合容易に洗い流せるようにする。

熱源や可燃物から離して、直射日光のあたる場所や30℃以上になる場所を避け、冷暗所に保管する。

**安全な容器包装材料：**

専用の容器を使用する。

---

## 8.ばく露防止措置及び保護措置

**許容濃度等：**設定されていない。

**設備対策：**取り扱い場所には安全シャワー、洗眼設備を設置し、その位置を明示する。

取り扱いについては、大気への開放部分が少ない装置・機械または局所排気装置を使用する。

**保護具：**必ず保護メガネおよびマスク、保護手袋、保護着を着用する。

---

## 9.物理的及び化学的性質

**物理状態：**液体

**色：**無色透明

臭い:酢酸様の刺激臭  
沸点又は初留点及び沸騰範囲:情報なし  
可燃性:情報なし  
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:情報なし  
引火点:情報なし  
自然発火点:情報なし  
分解温度:情報なし  
pH:約1(原液)  
動粘性率:情報なし  
蒸気圧:情報なし  
密度及び/又は相対密度:1.087(20℃):参考値  
相対ガス密度:情報なし  
粒子特性:情報なし

---

## 10.安定性及び反応性

**反応性:**通常の状態では安定であるが、重金属、アルカリ、還元剤等が混入した場合、過酸化水素及び過酢酸等が分解して発熱を伴い酸素ガスを発生するため、密閉容器では破裂することがある。

それ自体は燃焼することはないが、火災の熱により過酢酸あるいは過酸化水素等が分解し酸素ガスを発生するため、燃焼を助長する。(支燃性)

**化学的安定性:**通常の状態では安定である。

**危険有害性反応可能性:**強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と激しく反応する。弱酸であるアルミニウムを含む多くの金属を侵す。

**避けるべき条件:**衝撃、熱

**混触危険物質:**可燃性物質、還元性物質、アルミニウムを含む多くの金属

**危険有害な分解生成物:**情報なし

---

## 11.有害性情報

**急性毒性:**(経口):区分4(飲み込むと有害)

(経皮):区分3(皮ふに接触すると有毒)

(吸入:蒸気):区分4(吸入すると有害)

(吸入:粉じん、ミスト):区分4(吸入すると有害)

**皮膚腐食性/刺激性:**区分1(重篤な皮ふの薬傷および眼の損傷)

**眼に対する重篤な損傷/刺激性:**区分1(重篤な眼の損傷)

**呼吸器感作性又は皮膚感作性:**分類できない

**生殖細胞変異原性:**分類できない

**発がん性:**区分2(発がんのおそれの疑い)

生殖毒性:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分1(呼吸器系、血液の障害)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

区分2(長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ)

誤えん有害性:分類できない

---

## 12.環境影響情報

生態毒性:

水生環境有害性 短期(急性):区分2(水生生物に毒性)

水生環境有害性 長期(慢性):区分3(長期継続的影響によって水生生物に有害)

残留性・分解性:環境中では徐々に分解する

生態蓄積性:情報なし

土壌中の移動性:情報なし

オゾン層への有害性:情報なし

化学物質管理促進法(PRTR法)

過酢酸(第一種指定化学物質 管理番号:603) 5.5%(代表値)含有

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌攪乱物質(いわゆる環境ホルモン)と位置付けした 指定物質は一切配合していない。

---

## 13.廃棄上の注意

化学品, 汚染容器および包装の安全で, かつ, 環境上望ましい廃棄, またはリサイクルに関する情報「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物:廃棄物処理業者に処理を依頼する。

使用済容器:容器を水洗いしてから自治体のルールに従い処理する。

---

## 14.輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類:腐食性物質(クラス5. 1、容器等級II)

国連番号:3098

輸送の特定の安全対策及び条件:輸送時はイエローカードを保持すること。

引火性液体に該当しない。

運搬する場合には、飛散、漏洩、流出、又は浸出を防ぐのに必要な措置を講じなければならぬ。

運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、直射日光等による加熱を避け、荷崩れの防止を確実に行う。

分解を促進する恐れのある物との接触を避ける。

可燃性物質との混載は避けることが望ましい。

---

## 15.適用法令

### 労働安全衛生法(安衛法):

名称等を表示すべき危険物及び有害物 法第57条、施行令第18条

名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2、施行令第18条の2

・過酸化水素 4～6%

・酢酸 40%

・過酢酸 5～6%

皮膚等障害化学物質等 規則第594条の2

・過酸化水素 4～6%

・酢酸 40%

・過酢酸 5～6%

化学物質管理促進法(PRTR法):該当する

船舶安全法:酸化性物質類・有機過酸化物(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)

航空法:酸化性物質類・有機過酸化物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

毒物及び劇物取締法:該当しない

消防法:該当しない

医薬品医療機器等法:該当しない

食品衛生法:該当しない

---

## 16.その他の情報

### 参考文献

NITE-Gmices GHS混合物分類判定ラベル/SDS作成支援システム

- ・本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠しています。
- ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださる

ようお願い申し上げます。

---